

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502413		
法人名	医療法人社団 弘恵会		
事業所名	グループホーム 生きがい		
所在地	札幌市白石区北郷2条11丁目3-20		
自己評価作成日	平成27年8月	評価結果市町村受理日	平成27年9月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&JigrosyoCd=0170502413-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成27年8月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「介護老人保健施設生きがい」の4階に位置しています。見晴らしがよく、バリアフリーとなっており両ユニットの相互の行き来が自由になっており室内ホールは広々としています。
 ・冷暖房やスプリンクラーをはじめ非常災害時の設備や協力体制が充実しています。
 ・人格と意思を尊重し個々のニーズにあったサービス計画の作成とケアを心がけています。職員は穏やかに暖かく対応しています。
 ・医師や看護師が定期的に訪問し健康管理を行っており、医療支援体制が充実しています。
 ・地域との関わりを大切にし、住民参加の「運営推進委員会」年6回開催、ボランティア、地域行事への参加を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム 生きがい」は介護老人保健施設に併設したグループホームで、バス停からも近く利便性に優れている。建物内は清潔感があり、明るく広々とした造りになっている。前回の外部評価後に着任した管理者と計画作成担当者を中心に、職員間でコミュニケーションを取りながらより良いケアを目指して前向きに取り組んでいる。介護計画の評価表を新たに作成し、3か月毎の見直しに活かしている。地域の夏祭りに利用者と共に参加し、職員も出店の手伝いを行うなど地域との交流に積極的に取り組んでいる。また、中学校の職業体験を受け入れ、小学校の運動会見学にも出かけている。お手玉や民謡などの地域ボランティアも定期的に来訪して交流を深めている。家族の来訪時や電話の機会に運営推進会議への出席を依頼することで、家族の参加率が高くなっている。医療面では、住診による個別診察の他、管理者が同行しての受診も行われている。協力医療機関以外の受診にも管理者が同行したり、書面で健康状態を主治医に伝えて適切な医療が受けられるように支援している。入浴は、利用者毎に湯船のお湯を替え、湯上りに好きな飲み物を提供するなど楽しんで入浴できるように工夫している。食事は、管理栄養士の献立に沿って彩りの豊富な食事が提供されており利用者の楽しみのひとつになっている。

V. サービスの成果に関する項目(Aユニットアウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者を中心に定例会議、カンファレンス、勉強会などで、理念や目標を具体化するよう取り組んでいる。	「地域住民との関わりを大切に、行事などで交流を深めます」という、地域密着型サービスを意識した文言が理念の中に含まれている。事務所や廊下などに掲示し、定例会議で全員で唱和することもある。職員採用時にも説明して理解を深めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の清掃活動、地域の行事等への参加をする事で利用者と共に交流を図っている。	地域の夏祭りに利用者と共に参加し、職員も出店の手伝いをしている。小学校の運動会にも出かけている。お手玉や民謡、マジックショーなどの地域ボランティアも定期的に来訪している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームを地域へ開放し認知症の相談やボランティア等の見学や研修受け入れを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議録をもとにスタッフと話し合い、サービス向上に活かしている。2ヶ月毎に運営推進会議を開催し構成員の方や家族の方は、ほぼ毎回参加している。	来訪時や電話で参加を依頼する事で、毎回3~4名の家族が出席している。地域包括支援センター職員が講師になり、振り込め詐欺や後見人制度について話をしている。開催案内にテーマを入れ、参加できない家族の意見も会議に活かしたいと考えている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者には必要時随時連絡を行い、気軽に相談できる関係にあり、協力も得られている。	管理者は、介護保険の更新やおむつサービスの手続き、生活保護者の対応などで区役所を訪問して相談している。保護課の職員が来訪した時は、利用者の状況を伝えて相談することもある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会や定例会議で全職員が正しく認識しており、身体拘束のないケアを行っている。	「禁止の対象となる具体的な行為」を記載したマニュアルを整備し、禁止行為を事務所などに掲示している。危険が及ぶ場合、家族と相談して同意書を作成して一時的に拘束を行うこともある。事例に沿って身体拘束について話をする事もあるが、具体的な禁止行為について学ぶ機会は少ない。	年1回は、全職員で「禁止の対象となる具体的な行為」11項目について再確認し、更に理解を深めるよう期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	定例会議やカンファレンス等で話し合う機会を持ち、職員同士が注意を払い虐待防止に努めている。		

グループホーム 生きがい

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を行い個々の必要性を話し合い、必要時に活用支援できるよう準備をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、理解、納得を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見や要望を気軽に伺えるように、面会時の声かけや定期的な連絡を行っている。運営推進会議に参加して頂き、意見、要望など外部や全家族へもお便りで伝えている。	運営推進会議や家族の来訪時に声かけをして、意見や要望を聴き取るように工夫している。家族の意見や要望は、連絡ノートや個別のケース記録に記載して職員間で情報を共有している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見を取り入れ、運営に反映している。	定例会議に参加できない職員の意見は事前にメモ書きで提出してもらい、会議に反映させている。職員からの意見や提案などを反映して、適切なケアや運営の実施に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持って働けるよう、職場環境や条件を整備するよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの段階に応じて、研修を計画受講し、伝達したり、外部講師を招いての勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者会議に参加する機会を作りサービスの質を向上させていく取組を行って行きたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に家族同伴で面談を行い、要望や生活歴など本人、家族に伺い、介護計画にミリ込み、希望に沿う努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との面談や話し合いの時間を十分取り、いつでも相談でき、連絡できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	詳細なアセスメントを行い、相談の上ケアプランを作成、必要に応じ支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	プライバシーを保ちながら、本人の要望、出来ない部分への支援を努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の生活に対する意見や要望を反映させている、本人、家族、職員が思いを共有できる総合的な援助の方法を定めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的な家族との連絡、面会を大切にしている、馴染みの関係が途切れないように、手紙、電話連絡などの支援をしている。	昔からの友人や同じ町内に住んでいた方が来訪することもある。家族と一緒に、馴染みの美容室や外食に出かけている。電話や手紙で友人と交流を継続している利用者もあり、職員は手紙の投函などを支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人の生活習慣や人間関係などを把握しているので、職員は座席などに配慮し、孤立しないよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要な場合は情報提供をして相談なども受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の希望や気持ちを尊重し、本人が希望するケアを把握し、方法を工夫する努力を行っている。	会話から意向や思いを汲み取れる利用者が多いが、難しい場合は表情などから把握している。利用者の変化は、介護計画更新時に作成するアセスメントシートに記載している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人からの要望をもとに、可能な限り、その人らしい生活が出来るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録と申し送りにて全スタッフが随時心身状態の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定例会議にて課題とケアのあり方について話し合いを行っている。状態変化時は随時本人家族と一緒に見直しを行っている。	家族の意向や職員の意見、介護記録などを基に計画作成担当者が評価表を作成し、3か月毎に介護計画を更新している。今後は担当職員が評価表の作成を行う方向で考えている。計画に沿った日々の記録の作成は十分といえない。	介護計画の見直しに活かせるように、短期目標のサービス内容項目に沿って、変化や課題を日々の介護記録に記載するよう期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の変化を記録し申し送りノートなどで情報を共有してケアプランに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々必要性について可能な限り柔軟に対応するよう関係機関と連携を図り取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練への参加、小中学校の職場訪問でのふれあいなど自分の力を発揮できるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な主治医の往診、訪問看護で適切なケアを行っている。必要に応じて協力医療機関の支援受診を受けられるよう家族同意を得て行っている。	毎月、協力医療機関の医師による往診1回と管理者が同行しての受診が1回行われている。家族とかかりつけ医を受診する場合は、手紙と温度版の写しを渡したり、状況に応じて管理者も同行している。受診記録は、個別に時系列に記録している。	

グループホーム 生きがい

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の申し送りにて状況を把握している。体調変化時は早急に対応してくれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関を訪問し主治医との面談や家族を交えて早期退院へ向けた相談を行っている。医療機関とは良い関係が築けるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族へは重度化と終末期に向けてのホーム方針を文書をもとに説明し家族の意向を確認している。	「重度化した場合の対応に係る指針」を作成し、利用開始時に説明して署名捺印を得ている。医療行為が必要になった場合や、経口摂取が出来なくなった場合は事業所での対応は難しく、看取りを行わない旨を説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	管理者、看護師の指導のもと定期的な研修や訓練を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練、地域との協力体制を整えマニュアルの作成などを実施している。	消防署と防災協会の協力をそれぞれ受けながら、同一建物内の介護老人保健施設などと合同で、年2回日中の火災を想定した避難訓練を実施している。地域との協力体制について、詳しく確認するまでに至っていない。	地域との協力体制について、運営推進会議などで確認するよう期待したい。また、全体の避難訓練の中で、事業所として夜間を想定した訓練を行う事と、定期的に地震時のケア別の対応や危険な場所の確認を行うよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重やプライバシー確保について全職員が心がけ支援している。	利用者の呼びかけは「さん」づけとし、対応に気になる点があればその都度注意している。記録類は事務所に安全に管理している。接遇等の勉強会の実施を検討している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人とスタッフとの会話の時間を多く確保し思いや希望を聞き自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居前の生活を大切にしひとりひとりの生活のペースを把握し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族の協力を得て要望や好みのおしゃれができるようにしている。(化粧、美容室、買い物など)		

グループホーム 生きがい

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の嗜好にあうよう考えながら食事提供している。個人の能力にあった家事手伝いを支援している。	介護老人保健施設の管理栄養士の献立を基に食材が届けられ、彩りの豊富な食事が提供されている。職員も一緒に同じ食事を摂り、下膳やおぼん拭き、テーブル拭きなどを利用者が手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を記録把握し個人の状況に応じた適量を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に合わせた口腔ケアをスタッフが見守り必要な方には介助を実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄状況を記録把握し個々の排泄りずむにあった支援を行っている。	半分弱の方が自力でトイレに行くことができ、全員の排泄チェック表を作成してパターンを把握している。誘導の際は羞恥心に配慮して声かけしている。退院後に事業所に戻り、オムツ等を使用しなくて済むようになった事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の摂取や水分補給、運動の促しを実施している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴実施の時間など本人の希望を取り入れて随時実施している。	日曜日以外の午後の時間帯で各利用者が概ね週2回の入浴を行っている。拒否がある場合は無理強いせず翌日にずらしている。一人ずつお湯を入れ替え、湯上りに好みの飲み物を用意するなど、快適に入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各利用者の状況を確認しながら必要に応じて休息を促したり臥床介助を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を確認し副作用がないか観察を全職員で情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人らしい生活が送れるよう家事活動、レクリエーション、気分転換など支援している。		

グループホーム 生きがい

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り希望に沿って外出行事を実施している。家族同伴の外出の機会をつくり喜ばれている。	日常的に周辺を散歩したり、コンビニエンスストアに買い物に出かけている。中庭や屋上で気軽に外気浴を楽しんでいる。行事では法人のバスを使い、川下公園や豊平公園、町内会の夏祭り、大型スーパーへの買い物などに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々に合わせた金銭管理を行っている。売店での買い物や公衆電話の使用などを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で手紙や電話の介助を実施し、家族にも手紙や電話をくれるよう依頼している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有のスペースは常に清潔に明るく保ち季節感を感じられるよう飾り付けを変えている。エントランスには観葉植物を置き入居者と世話をしている。	建物4階の1フロアに2ユニットがあり、中庭に面した明かり窓を囲むように各ユニットが配置されている。共用空間は広く、壁には絵画や利用者の写真が飾られ、観葉植物やピアノや書籍なども配置されている。温度や明るさが調整され、室内が清潔に保たれており、快適である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	小上がりやソファで自由に過ごしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの品や家族と選ばれたものなどに囲まれ安心して落ち着いた生活が送れるよう支援している。	各居室にベランダがあり、4階のため眺望がよい。室内は馴染みの家具やテレビ、身の周りの品物などを自由に持ち込むことができている。壁にもカレンダーや手紙、自筆の短冊など自由に飾り付けしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は自由に行動できるが、その人によっては危険な場合もあるためスタッフは常に見守りや必要に応じた介助を行っている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502413		
法人名	医療法人社団 弘恵会		
事業所名	グループホーム 生きがい		
所在地	札幌市白石区北郷2条11丁目3-20		
自己評価作成日	平成27年8月	評価結果市町村受理日	平成27年9月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「Aユニット」に同じ

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&JigrosyoCd=0170502413-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成27年8月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(Bユニットアウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Ｂユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者を中心に定例会議、カンファレンス、勉強会などで、理念や目標を具体化するよう取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の清掃活動、地域の行事等への参加をする事で利用者と共に交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームを地域へ開放し認知症の相談やボランティア等の見学や研修受け入れを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議録をもとにスタッフと話し合い、サービス向上に活かしている。2ヶ月毎に運営推進会議を開催し構成員の方や家族の方は、ほぼ毎回参加している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者には必要時随時連絡を行い、気軽に相談できる関係にあり、協力も得られている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会や定例会議で全職員が正しく認識しており、身体拘束のないケアを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定例会議やカンファレンス等で話し合う機会を持ち、職員同士が注意を払い虐待防止に努めている。		

グループホーム 生きがい

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Ｂユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を行い個々の必要性を話し合い、必要時に活用支援できるよう準備をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、理解、納得を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見や要望を気軽に伺えるように、面会時の声かけや定期的な連絡を行っている。運営推進会議に参加して頂き、意見、要望など外部や家族へもお便りで伝えている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見を取り入れ、運営に反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持って働けるよう、職場環境や条件を整備するよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの段階に応じて、研修を計画受講し、伝達したり、外部講師を招いての勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者会議に参加する機会を作りサービスの質を向上させていく取組を行って行きたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価 (Bユニット)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に家族同伴で面談を行い、要望や生活歴など本人、家族に伺い、介護計画にミリ込み、希望に沿う努力をしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との面談や話し合いの時間を十分取り、いつでも相談でき、連絡できるよう努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	詳細なアセスメントを行い、相談の上ケアプランを作成、必要に応じ支援を行っている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	プライバシーを保ちながら、本人の要望、出来ない部分への支援を努めている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の生活に対する意見や要望を反映させている、本人、家族、職員が思いを共有できる総合的な援助の方法を定めている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的な家族との連絡、面会を大切にしている、馴染みの関係が途切れないように、手紙、電話連絡などの支援をしている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人の生活習慣や人間関係などを把握しているので、職員は座席などに配慮し、孤立しないよう支援している。			

グループホーム 生きがい

自己評価	外部評価	項目	自己評価 (Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要な場合は情報提供をして相談なども受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の希望や気持ちを尊重し、本人が希望するケアを把握し、方法を工夫する努力を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人からの要望をもとに、可能な限り、その人らしい生活が出来るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録と申し送りにて全スタッフが随時心身状態の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定例会議にて課題とケアのあり方について話し合いを行っている。状態変化時は随時本人家族と一緒に見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の変化を記録し申し送りノートなどで情報を共有してケアプランに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々での必要性について可能な限り柔軟に対応するよう関係機関と連携を図り取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練への参加、小中学校の職場訪問でのふれあいなど自分の力を発揮できるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な主治医の往診、訪問看護で適切なケアを行っている。必要に応じて協力医療機関の支援受診を受けられるよう家族同意を得て行っている。		

グループホーム 生きがい

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Ｂユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の申し送りにて状況を把握している。体調変化時は早急に対応してくれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関を訪問し主治医との面談や家族を交えて早期退院へ向けた相談を行っている。医療機関とは良い関係が築けるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族へは重度化と終末期に向けてのホーム方針を文書をもとに説明し家族の意向を確認している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	管理者、看護師の指導のもと定期的な研修や訓練を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練、地域との協力体制を整えマニュアルの作成などを実施している。		

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重やプライバシー確保について全職員が心がけ支援している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人とスタッフとの会話の時間を多く確保し思いや希望を聞き自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居前の生活を大切にひとりひとりの生活のペースを把握し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族の協力を得て要望や好みのおしゃれができるようにしている。(化粧、美容室、買い物など)		

グループホーム 生きがい

自己評価	外部評価	項目	自己評価 (Bユニット)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の嗜好にあうよう考えながら食事提供している。個人の能力にあった家事手伝いを支援している。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を記録把握し個人の状況に応じた適量を提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に合わせた口腔ケアをスタッフが見守り必要な方には介助を実施している。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄状況を記録把握し個々の排泄りずむにあった支援を行っている。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の摂取や水分補給、運動の促しを実施している。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴実施の時間など本人の希望を取り入れて随時実施している。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各利用者の状況を確認しながら必要に応じて休息を促したり臥床介助を行っている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を確認し副作用がないか観察を全職員で情報共有している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人らしい生活が送れるよう家事活動、レクリエーション、気分転換など支援している。			

グループホーム 生きがい

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Ｂユニット)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り希望に沿って外出行事を実施している。家族同伴の外出の機会をつくり喜ばれている。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々に合わせた金銭管理を行っている。売店での買い物や公衆電話の使用などを行っている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で手紙や電話の介助を実施し、家族にも手紙や電話をくれるよう依頼している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有のスペースは常に清潔に明るく保ち季節感を感じられるよう飾り付けを変えている。エントランスには観葉植物を置き入居者と世話をしている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	小上がりやソファで自由に過ごしている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの品や家族と選ばれたものなどに囲まれ安心して落ち着いた生活が送れるよう支援している。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は自由に行動できるが、その人によっては危険な場合もあるためスタッフは常に見守りや必要に応じた介助を行っている。			

目標達成計画

事業所名 グループホーム 生きがい

作成日：平成 27年 9月 3日

市町村受理日：平成 27年 9月 8日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	年1回は、全職員で「禁止の対象となる具体的な行為」11項目について再確認し、更に理解を深めるよう期待したい。	身体拘束についてのマニュアルを整備し、禁止行為等についての研修、勉強会を行い、全職員が把握できるよう努めます。	①年に数回研修、勉強会を行います。 ②身体拘束マニュアル提示だけではなく、禁止行為を全職員が把握できるよう毎月の会議にて再確認を行います。	即対応
2	26	介護計画の見直しに活かせるように短期目標のサービス内容項目に沿って、変化や課題を日々の介護記録に記録するよう期待したい。	ケアプランに沿った介護記録の記載方法など、会議、勉強会などで再確認を行い実施して行く。	①プランに沿ったケアを行い、状況の記録を行う。 ②担当者が各々に沿ったアセスメントを作成し、目標に沿ったケアが行われたかをカンファレンスにて再確認する。 ③日々の記録と共に変化について、特記事項を活用し記録して行く。	即対応
3	35	地域との協力体制について、運営推進会議などで確認するよう期待したい。また全体の避難訓練の中で事業所として夜間を想定した訓練を行う事と定期的に地震時のケア別の対応や危険な場所の確認を行うよう期待します。	事業所独自の災害時対策マニュアルを作成し、実践、訓練を行うと共に地域への協力依頼など、具体的に 行う。	①具体的な災害、火災、時間帯などを想定し、マニュアルを作成し、訓練を行う。 ②運営推進会議等にて、地域の方への協力を依頼して行きます。	即対応
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。